

「札幌版次世代住宅基準」に関する技術検討会議  
札幌版次世代住宅基準 新築素案

新築素案では、以下の4つのレベルを設定する。

(以下の項目の 印は建築関係、 は設備関係、 は両方に係わることを示す。)

<ベーシックレベル>

北方型住宅E C Oレベル以上とする。

札幌市温暖化対策推進ビジョン(案)の住宅に関する削減量達成のためには、次世代基準より2割の性能向上が必要。(熱損失係数 国の次世代  $1.6 \text{ W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K}) \times 0.8 = 1.28 \text{ W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ 以下)

<スタンダードレベル>

現行の高性能断熱材と熱交換換気を採用し、北方型住宅E C Oより概ね2割程度性能が向上したレベルとする。

スタンダードレベルの熱損失係数

熱交換換気を含む熱損失係数  $1.0 \text{ W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ 以下

(熱交換効率 60%設定)

(北方型住宅E C O Q値  $1.3 \text{ W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K}) \times 0.8 = 1.04 \text{ W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ )

建物単体の熱損失係数  $0.8 \text{ W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ 以下

<ハイレベル> (自立住宅レベル)

トップランナーレベルを目指す上での一つのステップとなる水準で、スタンダードレベルの2~3割の建物性能の向上を図るレベルとする。

また、太陽光発電を導入し、今後開発が期待される高効率家電製品やヒートポンプを用いることによって、太陽光発電の発電電力で住宅内の全てのエネルギーを賄うことのできる住宅性能を想定する。

ハイレベルの熱損失係数

建物単体の熱損失係数  $0.6 \text{ W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$

熱交換換気を含む熱損失係数  $0.7 \text{ W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$

(熱交換効率 75%設定)

<トップランナーレベル>

・パッシブハウス相当とする。

・熱損失係数(熱交換換気含む)  $0.5 \text{ W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ 以下

(熱交換効率 80%以上)